

# トルコギキョウ斑点病対策 ～キルパーの効果的な処理方法～

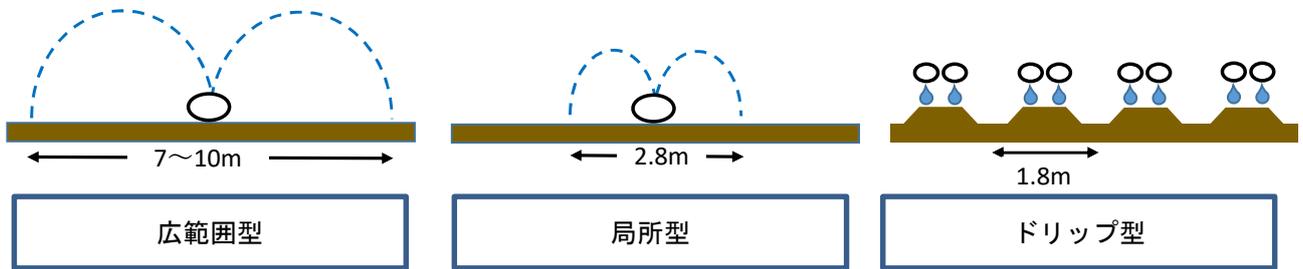


図1 様々な散水方法



写真1 広範囲型を用いた試験の様子  
※局所型も同じ方法で試験を実施した。

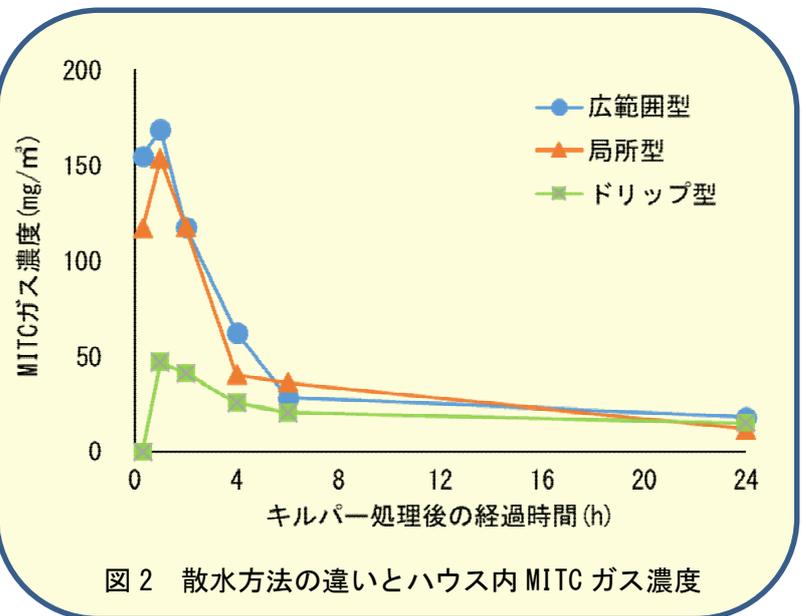


図2 散水方法の違いとハウス内 MITC ガス濃度

2019年11月、トルコギキョウ斑点病のまん延防止を目的としてキルパーが適用拡大されました。本剤は、薬液を水で希釈し、土壌表面に散水して使用します。このときMITC(メチルイソチオシアネート)ガスが発生して防除効果を発揮しますが、ガス濃度が高いほど防除効果は上がります。

そこで、ハウスの隅々まで水が行き渡る広範囲型、通常栽培で使用されている局所型およびドリップ型(図1)を用いて、キルパー原液60L/10a(50倍希釈液)を流し込み(写真1)、散水資材の種類がハウス内のガス濃度に及ぼす影響を調査しました。なお、試験は3月下旬から4月中旬に、2aのハウスで順次行いました。

その結果、広範囲型と局所型で同等のガス濃度に達し(図2)、薬液がハウスの隅々まで到達しなくとも、空間の濃度上昇が見込めることがわかりました。水圧が足りず、かん水を数回に分けているほ場においても、キルパー処理時にはかん水ラインを4分の1程度に絞って、広い面積を一気に処理することも可能となります。一方、ドリップ型では、ガス濃度は上がりにくい傾向がありました。

キルパーの効果は、対象作物・病害虫や土壌条件などでも異なるようです。今後は、他の作物についても効果的な処理法を検討する予定です。

(農薬管理担当 島本文子 088-863-4915)